

---

## 研究の経緯

---

国立歴史民俗博物館（以下、歴博）が20年以上続けてきた AMS - 炭素 14 年代測定によって相対年代から高精度な較正暦年代に基づいた数値年代への転換が進む先史時代研究と、21 世紀以降、DNA 分析が急速に進んでいる分子人類学との異分野連携によって、先史時代をはじめとした遺跡から出土する人骨の DNA に数値年代を与えることが可能となってきた。その成果は、先史時代の親族構造や通婚圏、人口増加率シミュレーションなどを研究していく上での有益な情報となる。

本報告は、2018 年度から 5 年計画で始まった文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究（研究領域提案型）「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」（課題番号：18H05505、研究代表 国立遺伝学研究所教授 斎藤成也）の計画研究班 B01「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」（課題番号：18H05509、研究代表 国立歴史民俗博物館教授 藤尾慎一郎）と計画研究班 A02「古代人ゲノム配列解析にもとづくヤポネシア人進化の解明」（課題番号：18H05507、研究代表 国立科学博物館館長 篠田謙一）の 2019 年度の調査 2 である。

2018 年度と 2019 年度の調査成果は、年代学的調査結果と DNA 分析結果の調査報告を、『国立歴史民俗博物館研究報告』第 219 集（2020 年 3 月刊行）、第 228 集（2021 年 3 月刊行）という通常号上で発表してきたが、3 年目となる今年、10 本の調査研究活動報告に、論文 2、研究ノート 2 本の論考を加えた特集号として刊行することができた。

なお 2020 年度には、福岡市博多遺跡群第 203 次調査出土弥生人骨の年代学的調査と DNA 分析を行い、その成果を『福岡市埋蔵文化財調査報告第 1405 集、2021 年 3 月刊行』に発表している。

最後に、本報告の編集は、B01 班、研究分担者の木下尚子・清家章・濱田竜彦・山田康弘、研究協力者の坂本稔・瀧上舞、A02 班 計画研究代表の篠田謙一の協力を得て、藤尾が行った。

計画研究班 B01 代表 藤尾慎一郎  
(国立歴史民俗博物館研究部)